

平成 31 年度施政方針

平成 31 年 3 月
広島県府中市

「希望と笑顔があふれるまちづくり」

～踏み出そう、力強い第一歩！

オール府中で新しい旋風を巻き起こす！～

1 はじめに

平成 30 年度を振り返りますと、昨年 7 月、今まで経験したことのない未曾有の豪雨災害が発生し、府中市でも家屋の倒壊や浸水、山地崩壊、インフラやライフラインの寸断等が多数起こり、市民生活に甚大な被害をもたらしたことは記憶に新しいところです。また、この災害により、府中市内でお二人の尊い命が奪われました。今でも、悔やんでも悔やみきれない悲しみが込み上げてまいります。改めまして、お二人のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆様の心に寄り添いながら、行政として早期の生活再建、災害復旧、そして強靱化に最優先で取り組む強い決意を表すものでございます。

また、教育環境改善の一環として、私がかねてから申し上げていました、市内全ての小中学校及び義務教育学校の普通教室へのエアコン設置につきましては、昨年 12 月に補正予算を計上し前倒しでスタートをきったところです。現在は設計を終え、今後は入札や契約の手続きに着手するなど、順調に業務を進めております。引き続き、早期の使用開始に向けて鋭意取り組んでまいります。

そして、府中市民はもちろんのこと、広島県民が大いに沸いた広島東洋カープのセ・リーグ三連覇はたくさんの元気と勇気を与えてくれました。この快挙は、入団から選手を育てあげ、選手同士の切磋琢磨を促し開花させるというカープの選手育成方針が導いた結果だと感じています。この方針を、私が目指すまちづくりに置き換えてみますと、現有する府中市の様々なポテンシャルを磨き上げ、それらのポテンシャルが互いに化学反応を起こすことによって、他のまちにはない府中市だけの魅力を開花させることができると考えます。

2 国の情勢

国の情勢に目を向けてみますと、アベノミクスの推進により日本経済は大きく改善し、デフレから脱却する中で、GDP は名目、実質ともに過去最大規模に拡大しました。また、企業収益

は過去最高を記録するとともに、就業者数の増加、賃上げ等、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環は着実に実現されています。

また、国の平成 31 年度の予算編成においては、財政健全化への着実な取組を進める一方で、幼児教育の無償化をはじめとする「人づくり革命」の推進や第 4 次産業革命の技術革新等を通じた「生産性革命」の実現に向けての設備・人材等への力強い投資、研究開発・イノベーションの促進等重要な政策課題への対応に必要な予算措置を講ずるなど、メリハリの効いた予算編成を目指しています。

3 平成 31 年度府中市行政経営の基本姿勢及び方向性

全国の地方自治体は、人口減少時代において地域間競争を勝ち抜くため、様々な施策を展開し地方創生を成し遂げようとしています。府中市もこれまで総合計画や総合戦略に掲げた施策に基づき様々な事業を行ってきましたが、これらの施策が、府中市が抱えるまちづくりの課題の本質を解決するに足りたかどうか十分な検証がなされていないのが現状です。このことを直視した上で、まちづくりを進めていく過程において「何が課題なのか」、そして「課題解決には何が必要で、何が足りないのか」「どういった結果を求めるのか」を洗い出すため、施策と予算を整合させる行政経営の一環として政策協議を行いました。さらに、若手職員を中心に「リノベーション・プロジェクト・ワークショップ」を開催するなど、新たな取組により「政策重視」に主眼を置いた行政経営の必要性について意思統一を図りながら重点施策を決定し、当初予算に反映したところです。

次に、今後の財政見通しでございますが、歳入では、景気の回復基調を背景として近年の税収は微増傾向にあるものの、災害からの復旧・復興が道半ばであること、今年 10 月からの消費税率引上げにより、経済活動や消費活動に及ぼす影響が懸念されること、普通交付税については平成 27 年度から始まった合併算定替分の縮減が続いていること等を背景に、楽観視はできない状況にあります。

一方、歳出では、人件費が退職者数の増や会計年度任用職員制度の導入等を要因として増加傾向、扶助費は自立支援給付費の増、子育て施策の充実等により高止まりの状況もしくは微増

傾向となることをそれぞれ見込んでいます。

このように、一般財源の確保が厳しい状況が今後も続くことが予想されますが、「選ばれるまち」となるためには様々な【夢】を描き【変革】し続け、府中の「強み」を磨き上げることでまちの魅力を創造し、発信しなければなりません。そのためには、あらゆる手段を講じ、政策を実現する財源を確保しなければなりません。

また、私が考える府中の「強み」とは、「懐かしさ漂うレトロなまち並みと、世界に通ずる近代産業が共存したまちの魅力」、「全国トップクラスの教育・子育ての取組」、「府中市の原点であるものづくり産業の集積」です。

この「強み」を徹底的に磨き上げながら、市民・企業の皆さんと力強い一歩を踏み出し、「希望と笑顔があふれるまちづくり」を実現するための新たな 10 本の施策を、総額 215 億 2,000 万円となる平成 31 年度一般会計当初予算に盛り込みました。

(1)防災対策・安全安心

「平成 30 年 7 月豪雨」により発生した災害において、インフラ施設や公共施設の脆弱性が露呈されるとともに、災害情報や避難情報を発信する際の判断基準や伝達手段の不十分な点が明らかになったところです。言うまでもなく、有事の際は人命を優先しなければならず、的確な判断、迅速かつ正確な情報伝達、適切な避難所運営が求められます。また、「自らの命は自らで守る」防災意識を醸成するため、地域での防災活動を普遍化する取組も必要です。これらの教訓を胸に刻み、今後起こりうる災害に対応していくために、

●被災箇所の早期復旧とライフラインの強靱化を図ります。また、内水排水対策として、新たに、排水樋門の改修を行い、固定式大型ポンプ及び可搬式小型ポンプを配備します。

●災害対応にあたる職員への参集連絡や町内会や福祉施設等への情報伝達を迅速かつ正確に行うため、新たに、メール、電話、FAX 等複数の情報伝達手段を統括して配信できるシステムを導入し、情報伝達能力の強化を図ります。

また、新たに、危機管理型水位計を設置することにより、大雨により増水した河川の水位状況をリアルタイムで発信し早期の避難につなげます。

避難所については、備蓄食糧の充実や、新たに、ダンボールベッドの配備や冷暖房器具のレンタル対応を行う等、避難環境の充実を図ります。

●「自らの命は自らで守る」防災意識の高揚と、地域防災活動の深化を図るため、防災リーダーの育成や防災訓練等について、地域と行政が連携して実施します。

●老朽化したインフラ施設や公共施設の長寿命化・更新を施し、安心・安全と利便性を兼ね備えた都市基盤づくりに努めます。

なお、可燃ごみの広域処理につきましては、福山市・神石高原町と協議を重ねた結果、この度、広域処理を進めることを確認しました。具体につきましては、引き続き、協議を行ってまいります。

(2)教育・子育てのメッカづくり

府中市の未来を支える子ども達は地域の宝です。一方で、子どもを産み、育てることには多くの不安や負担があるかと思えます。特に働きながらの子育ては、母親と父親の当事者だけの力では限界があることから、それぞれのライフステージに対応した子育てを支援する仕組みを構築し、子育て家庭に寄り添い、子育ての不安感や負担感を軽減し、安心して子どもを産み、育てられる地域社会をつくらなければなりません。さらに、未来を担う子ども達に「生きる力」を授けるための教育環境を整えることが必要です。

そのために、

●妊娠・出産、子育ての切れ目ない支援をトータルでサポートする拠点として、新たに、府中版ネウボラを設置し、子育て全般に関する悩みをワンストップで解決します。

●子育て世代の負担軽減を図るため、国に先行して、今年4月から保育料の無償化を実施します。

●府中市の先進的な取組であるコミュニティ・スクールと小中一貫教育をさらに発展・拡大させた「府中教育 Unified・City」(ユニファイド・シティ)を構築することで、府中市教育のブランド化を図り、今年8月に開催する全国コミュニティ・スクール研究大会で府中市の取組を全国に発信します。

また、児童・生徒が安心して学習に取り組める環境等を整

備するため、特別支援教育支援体制の拡充を図るとともに、新たに、スクールソーシャルワーカー、スクールガード支援員、部活動指導員を配置します。

●放課後等の子ども達の居場所づくりや学習支援を行うため、放課後児童クラブの開所日数を増やし、開所時間を延長するとともに、天領あやめ塾の対象を高校生から中学生まで拡大します。

●子育て世代の居住支援を行うため、新たに、桜が丘団地に子育て応援モデル住宅を建築し、低価格で販売します。また、子育て応援モデル住宅に加え、賃貸タイプの実現可能性について先進事例等を参考にしながら調査を行います。

(3)健やかライフの実現

市民の皆さんは、住み慣れたまちで生きいきと暮らしたいと願っています。そのようなニーズに応えるためには、若い人、障害を持つ人、お年寄り等、年齢性別を問わず様々な状況に置かれた人達が安心して健やかに生活できる環境づくりや、一人ひとりの健康的な生活習慣の実践と市民の主体的な健康づくりに資する取組が必要です。

また、府中市民病院や府中北市民病院において将来にわたり安定した医療を提供するため、人材確保をはじめ経営支援を行う必要があります。

そのために、

●子育て、介護、障害、貧困等複雑化した地域課題の包括的な受け皿として、新たに、上下地域に地域包括ケア拠点施設を設置します。また、府中市病院機構が府中北市民病院に設置するサービス付き高齢者向け住宅への入居に係る費用の一部に対し助成を行います。

●各種助成制度等により医師及び医療機関の確保に努めるとともに、地域医療体制の充実を図るため、引き続き、府中市病院機構に対する支援を行います。

●健康寿命の延伸に向け、生活習慣病の早期発見・早期治療、重症化予防に取り組み、市民一人ひとりの健康的な生活習慣の実践や市民の主体的な健康づくりを支援します。

●地域福祉充実の指針となる、地域福祉計画と障害者福祉計画を策定します。

(4)新たな価値を創造し、成長し続ける産業の支援

府中市の歴史を支えてきたのは、ものづくり産業です。この強みは簡単に模倣できるものではなく、脈々と受け継がれた職人気質や府中メイドの技術は唯一無二の宝であり、誇るべきものであります。激化する企業間競争や、目まぐるしく進展する技術革新に対応しなければならない時代において、ものづくり産業が今求めているニーズを的確に把握し、世界水準の技術を有した府中市のものづくり産業を全力で支援する必要があります。

そして、企業の新規参入やイノベーションを支援するための基盤整備や財政的支援を行い、経済が活性化することで投資と人を呼び込むまちを目指さなければなりません。さらに、企業の人材不足を解決するため、府中の企業を積極的にPRするとともに、就職希望者に対して企業との橋渡しを担っていかねればなりません。

また、農林業につきましても、担い手の高齢化や従事者の減少等深刻な課題を抱えていることを踏まえ、人材の確保・育成や効率的な生産体制の構築に加え、特産品のさらなる販路拡大に向けた支援を行う必要があります。

そのために、

- 新たに、産業振興の指針となるビジョンを策定します。
- 企業の流出防止を図るため、地場事業所の市外への流出抑制と新たな事業所の誘致を想定し、産業用地に係る企業ニーズを把握し、産業用地の候補地及び実現可能性について調査を行います。
- 市内企業の労働力と人材を確保するため、就職希望者や高校生向けの企業説明会等を引き続き実施します。さらに、府中市が主体となり、インターンシップ制度の活用等による就職希望者と企業のマッチングを行う仕組みづくりについて検討します。
- 販路拡大、新商品・新サービスの開発を支援するため、引き続き、ビジネスチャンス拡大に向けた各種助成制度を活用した支援を行うとともに、リアル開発会議の開催により異業種交流を活性化させます。
- 首都圏での拠点性と情報発信機能を最大限活用し、府中ブランドの認知度向上、企業や生産者とバイヤーとのビジネス

マッチング等、販路拡大に向けた取組を強化するため、NEKIの運営支援拡大を図ります。

●農産物の栽培施設整備や農業機械の導入等、生産効率の向上に向けた取組を支援するとともに、新たな担い手の育成支援策の充実を図ります。また、魅力発信拠点である道の駅やNEKIを活用し、首都圏も視野に入れた特産品の戦略的な販路拡大に取り組みます。

●森林管理の集積・集約化を行い、林業経営の効率化を図るため、新たに、森林経営管理制度の運用を始めます。

(5)ICT 都市ふちゅうの実現

国が唱える「Society 5.0」社会とは、IoT、ロボット、AI等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、格差なく、多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会とされています。

今後、このような社会が到来し、地域の課題解決や活性化を図るため、農業、観光、防災、医療、介護等の様々な分野でAI・IoT等を活用したサービスが開始されることを想定した場合、府中市の情報通信基盤の整備状況は決して十分では無いと言わざるを得ません。AI・IoT等を前提とした第4次産業革命に向けた動きが加速する中、特に、5G・光回線等の高速情報通信ネットワークの整備は急務であると考えます。

また、市内外から「選ばれるまち」となるためには、立ち遅れた情報通信基盤の整備に最優先で取り組む必要があります。

そのために、

●市民活動や企業活動を支援するため、高速情報通信基盤が整備されていない府中上下間の空白地域及び上下町主要エリア周辺部に、新たに、光回線ネットワークを整備します。

また、5Gの早期市内全域化に向けた検討を行うとともに、民間企業と連携した社会実装実験や、様々な分野における活用可能性を盛り込んだ地域ICT化構想（仮称）の策定について検討を進めます。

●次世代を見据えた公共交通のあり方について、新たに、民間企業との連携により、オンデマンドモビリティを活用した公共交通利用データの取得と解析を行い、未来の公共交通構

築に向けた調査・研究を進めます。

●市役所庁内の ICT 化を推進するため、新たに、働き方改革の一環としてモバイルワークを実施するとともに、さらなる業務の効率化を図るため業務工程の自動化（RPA）の実証を行います。

(6)観光、ブランディング

府中市には風光明媚な観光地が多く、また、年間を通じて様々な観光イベントを開催し、四季を通じて市民や来訪者の皆さんに感動と癒しを提供しています。特に上下地域では外国人観光客も増え、府中市の知名度も高まっていると感じています。

しかし、市内に点在する観光資源間の連携がなく、市内には宿泊施設も少ないため、滞在型の観光が確立されていないのが現状で、府中市の魅力を来訪者に十分伝えきれていないと感じています。ストーリー性や連続性がありバリエーションに富んだ観光コンテンツを開発し、市内全体の回遊性を高めていく必要があります。

そのために、

●観光資源に求める役割を明確にし、観光行政の方向性を示すビジョンを新たに策定します。

●観光情報の発信や観光イベントの企画、府中市の魅力を十分に味わえる観光プランの商品開発等を行い観光市場へ売り出すため、府中市観光協会の体制を強化します。

●歴史的建造物である上下町の翁座や角倉邸をリノベーションし、新たな観光資源や滞在空間を創出することで、観光地の魅力を高めます。さらに、上下地域全体の観光をプロデュースしていきます。

●世羅町、神石高原町と連携し、中山間地域の強みを生かした観光プロモーションを新たに展開します。

(7)人を呼び込む、人が集まる

賑わいのあるまちを創出していくためには、まちの顔となる拠点づくりや、府中に訪れなければ見ることができない、参加することができないイベント等を効果的に開催していく必要があります。つまり、どこにでもあるモノやコトを並べたところで、新しさや特異性が無ければ多くの人の興味をそそることはできません。とは言うものの、足りないものを新調ばかりす

るのではなく、現有する拠点施設の活用方法や、従来から実施しているイベント等の実施方法を見直して、切り口や伝え方を変えていくことで、「今までとは違う」「古いけど斬新」といった印象を与えることも重要であると考えます。

また、地方への移住・定住を希望する人のニーズを正確に把握し、そのニーズに応える有益な情報を切れ目なく提供するとともに、受入体制を整えていくことが必要であります。

そのために、

●府中駅を中心とした市街地に新たな魅力を加えるとともに、既存のまち並みの魅力を再発見し磨き上げるなど、まち並みを再構築するためのグランドデザインを新たに策定します。

●道の駅は府中の魅力を発信するための拠点であることを踏まえ、「特産品の買い物をする場所」という枠を超え、新たに、集客型・体験型のイベントを随時開催するなど、「道の駅に行けば何か楽しいことをやっている」と思わせる仕掛けづくりを行うことで認知度を高め、府中駅南エリアにおける魅力的な空間の形成と集客力の強化に取り組みます。

●全日本 EV&ゼロハンカーレース、(仮称)府中まちゼミアやドローンレース等、「府中ならではの」「府中だからこそ」というイメージを彷彿させるイベントを開催します。また、スポーツによるまちづくりを進めるため、まちの魅力を高める新たなスポーツイベントを開催します。

●引き続き、移住・定住フェア等を活用して、府中市の魅力をより多くの人に伝え、住まいや就職等の受入体制を充実させながら、実際の移住・定住へ誘導します。

(8)シティプロモーション

府中市の認知度はどれくらいなのか、とても気になる場所でもあります。「東京じゃないよ広島だよ」というフレーズが頭をよぎりますが、せっかく魅力的な取組を行っているのに、ただ知られていないというのは残念で仕方ありません。市内外、国内外問わず、少しでも多くの皆さんに府中市を知っていただくためには、あらゆるツールやメディアを活用して新鮮で有益な情報を届けなければなりません。

そのために、

●従来のひろおく便りやエフエム放送による情報に加え、新たに、広い放送エリアと高い聴取率をもつ RCC ラジオで、県内初の毎週放送となる府中市ラジオ番組「府中に夢中！」を放送し、府中市の露出度を高めます。

●新たに、広報ふちゅうをデジタルブック化し、ポップアップ機能による文字の拡大や、多言語への翻訳や自動音声読み上げに対応させるなど、スマートフォンやタブレット端末からの広報ふちゅうの閲覧利便性を向上させます。

(9)市民との対話

まちづくりの主役は市民の皆さんです。そして、私自身、市民の皆さんとの対話は必要不可欠であると考えています。市民の皆さんが、まちづくりの思いを行政に安心して託していただけるよう、信頼関係の構築に鋭意努めてまいります。

そのために、

●市民の皆さんとの対話を定期的実施するため、引き続き、市長懇談会「いきいきトーク」を開催するとともに、まちづくりのパートナーである町内会との意見交換の場を設けます。

●町内会に対し、新たに、情報連携を目的としたタブレット端末を試験的に導入し、行政情報の共有や電子回覧板の試行配信、防災メールの配信や災害情報の共有を図ります。

●地域貢献活動の担い手として高齢者の皆さんの活躍が期待されていますが、地域課題を解決する主体的な活動を行う場合に、高齢者の皆さんのお力を活用する取組に対し支援を行います。

(10)行政経営の仕組みづくり

実効性のある様々な施策を打ち出していくためには、縦割りで硬直化した人材・組織ではなく、横断的でフレキシブルな対応ができる人材と組織体制を作り上げるなど、行政自身も大きな変革を求められています。

そのために、

●まちづくりの重点テーマを設定し、戦略的に取り組む施策を盛り込んだ新たな総合計画を策定します。

●政策重視・政策実現に向けた組織体制への改編を行います。

●府中市が抱える諸課題に対して適切な助言・指導が行える

プロフェッショナル人材を新たに確保し、今後の社会の多様性に対応した魅力ある自治体を目指します。

●研修や人事交流を通じ、知識が豊富で、柔軟な思考を持った、コミュニケーション能力の高い職員を育成します。

4 おわりに

昨年5月に府中市長に就任し、早くも10ヶ月が経ちました。

また、6月の所信表明で、「人口減少が進む府中市では、この流れをいかに緩和し、まちの活力を維持していくかが大きな課題である」、「府中市のポテンシャルを掘り起こし、まちの活性化を図る」と述べたところですが、当然のことながら、この気持ちには現在も一寸のぶれも無く、「子どもが元気に育ち、いきいきと活動するまち」、「活気と魅力があふれるまち」、そして「みんなが元気で安心して暮らせるまち」を実現するため、改めて兜の緒を締め、新たなスタートへ向けて気持ちを高ぶらせているところです。

この度の予算は、私が手がける初めての予算です。

平成30年度当初予算と比較して、対前年度比10.2パーセントの増となりました。決して財源が潤沢なわけではありませんが、何もしないで手をこまねいては現状を打破することはできません。災害を克服して市民の皆さんと力強い第一歩を踏み出し、「府中を変える」「府中を輝かせる」という強い気持ちをこの「攻めの予算」に託し、新たな旋風を巻き起こして「希望と笑顔があふれるまち」を実現することが私の使命であると考えます。

最後になりましたが、私のこの熱い思いをご斟酌いただき、今後とも府中市行政に対し、格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月4日

府中市長 小野 申 人